平成27年度第2回宗像市景観審議会議事録

平成27年8月7日(金) 14:00～15:05

宗像市役所3階 第2委員会室

出席者

委員	出欠	委員	出欠	委員	出欠
日高 圭一郎	出	柴田 久	出	大方 優子	出
萩島 理	欠	葦津 幹之	出	花田 省蔵	出
立部 瑞真	欠	梶原 富子	出	野田 聖子	出
前田 誠	出	梅田 芳徳	出	平松 秋子	出

印は会長、 印は副会長

1. 景観計画の届出等の概要について

質疑・意見

太陽光パネルの設置について、前回の会議で、設置に対する市の優遇措置は打ち切りになると聞いたので、今後は少なくなるかと思っていたが、やはり設置はあるようだ。

- ・前回出た優遇措置の打ち切りは、期間を短縮したということで、現状では優遇措置自体はまだ残っている。既に経産省の認定を受けている場合もあり、いきなりの打ち切りは問題があるということで、期間の短縮にとどまった。

神湊の九産大グランド跡地に実際に設置されている場所を見た。そこは、生垣をつくっていて道路から見ても美観を保っていた。他もそのような処置をお願いしたい。

- ・神湊の太陽光パネル設置は、景観計画の施行前だったが、事前に世界遺産登録推進室とともに先方と協議させていただき、景観への配慮として植栽をお願いしたところ、応じていただいた事例である。

前回と違って、大変丁寧にわかりやすく届出の内容を説明いただき感謝申し上げます。世界遺産に向けて具体的に動き出したこともあり、太陽光パネルはなるべく早く対策をとらないと、と心配している。太陽光パネル設置について、8番の事例は、指導内容が何かあったのかということと、19番、20番は、県道からは見えないとのことだが、県道69号だけでなく、他の主要な視点場から見えないことの確認は行っているか、ということの2点をうかがいたい。

- ・8番は、景観計画施行前に土地の地ならしは終わっていた。今回はパネルの建設についてのみの届出であった。指導内容については、周囲から見えないようなダークブラウン色のフェンスや植栽をお願いした結果、フェンスの設置はしていただけたが、ダークブラウン色については費用の面からできないということで、我々が希望するダークブラウン色にはならなかった。
- ・19番、20番は、県道69号以外にも、他の視点場となる主だった道路からの確認

は行っている。事業者に5つのポイントを伝えて、そのポイントから今回の行為が見えないよう配慮をお願いし、写真をとってきてもらって届出書類として添付してもらったうえで適合通知を出している。

8番については、計画策定前のこともあり、指導に限界があるのかなと思う。19番、20番は、行為地が山の窪地なので下から見上げれば見えないが、視点場自体が高い場所だと見える可能性がある。その確認はされたのか。世界遺産の登録に向けてイコモスは、眺望点から見た時に目立っていないかというような調査を行う。周りの道からは見えなくても、遠く離れた山の上などからの確認がなくて大丈夫かなと思う。視点場自体が高い場所からの見え方の確認を、次回以降は念頭においた方がよい。

視点場は、景観計画に挙げている視点場以外にも、という意味か。

趣旨はそういうことだが、重点区域でなければあまり気にしない。イコモスの審査の時は、この区域をくまなく回っていくことになる。その際に見えるかどうかが気になる。ただ、全部確認することは難しいと認識しているので、本当に主要な場所からの眺望だけは確認することは徹底した方がよい。

- ・景観計画に位置づけている視点場の中で高い位置にあるのは、大島の御嶽山展望台と辺津宮の高宮の2か所で、今回の案件はおそらくそこからは見えないと思う。

玄海地域の一部では太陽光パネルが多く目立っている。重要なポイントなので、対策を考えた方がよいと思う。

- ・メガソーラーについては、正直申し上げて対応に苦慮している。景観計画、景観条例では立地を止めることができない。景観計画の基準を厳格に適合させても限界がある。富士宮市では、太陽光発電設備に特化した条例をつくっていて、一定の区域においては設置に市長が同意しないという、立地そのものをやめてもらう仕組みをつくっている。今の状態には危機感を感じているので、今後とも是非皆さんにご意見をうかがいながらやっていきたいと思っている。

長崎県では、来月辺りに教会群の登録に対するイコモスの調査が入る予定である。人工構造物が目立ってしまったがゆえに構成資産に入れられなかった案件が長崎にはある。立派なものが設置してあることはイコモスの審査では危ないので、修景はできるだけ植栽の方がよく、フェンスさえあればよいとか、ダークブラウンであればよいとか、というわけではないと認識した方がよい。

先ほど説明のあった公共施設の板張りの件は、景観アドバイザーのどなたかが推奨されたのか。少し心配なのは、他の事例と同じような方法でコンクリートを隠すために板を張ると、張り方や板によっては逆に目立つので、何もしない方が目立たないこともありえるので、もし何か工夫を凝らす際には、景観アドバイザーにもう一度確認をとって進めるような配慮をした方がよいと思う。

2. 宗像市屋外広告物条例の制定について

質疑・意見

資料2のP6に映像広告の記述がある。ちょっと心配なのが、道の駅のトイレの前に電光表示の広告物があること。あれは、どうなるのか。基準に合致するのか、違反するのか、前もって調べておいた方がよいと思う。

- ・まず、現物を確認させていただく。既存不適格であれば、特別地域なので今後は認めないことになる。新しいルールについても徹底していきたい。
- ・道の駅のように公共の施設は一般の市民に模範を示すものでなければならないと考えているので、対応を精査して、単なる既存不適格ではなく、善処できるところは善処していきたい。

簡易広告物になると思うが、春頃から秋の10月のマラソンの交通規制の看板や、9月の花火大会の規制の看板等が玄海地域にかなり出ているようだ。手引きを単純に読めば、簡易広告物の許可期間は1か月間しかダメだということじゃないかと思う。行政が関わってのことなので、説明できる状況をつくっておいた方がよいと思う。

- ・資料2のP11の(2)にあるように、イベントの広告物は適用除外となっている。しかし、その会場の敷地内に表示するとしている。また、(1)に国や地方公共団体が設置する場合は適用除外としているが、適用除外に該当するからといって、何でもOKとはいかないと思う。少なくとも市で主催するものについては、まず、庁内にこの条例の周知を行い、民間にもお願いするのだから、当然自分たちが模範にならないといけないという研修や庁内のルール化を今後行っていきたい。

青少年指導委員を行っている関係で、子ども110番の旗を立てたり、サインを貼ったりしている。そういうのは今後どう扱えばいいか。また、宗像大社の駐車場などに宗像警察署からの依頼で、車の盗難に気をつけるようにという旗を立てたりしている。それは今のままでいいのかお尋ねしたい。

- ・のぼりは、ガードレールなどの禁止物件に設置していることがよくあり、これは現在でも違反である。しかし、国や地方公共団体が設置する場合は適用除外なので、禁止物件にも設置できる。子ども110番は、警察が設置主体であれば設置可能。青少年関係の広告物も、市が設置しているものであれば問題ない。ただし、一度例外をつくと歯止めがきかなくなる恐れがあるので、まずは、今のルールの中でできる範囲でやっていただきたいという考えをもっている。

長崎では、のぼりなどの広告物はどう対応されているのか。

長崎もケースバイケース。広告物は、案件ごとに苦労しているのが実情だが、のぼりは仮設なので、恒常的なものに比べると撤去しやすい。

3. その他

空き家が増えていることと同様に、太陽光パネルの設置も増えている。これは、例えば

買い取り価格が下がったり、収益が上がらなくなった場合、そのままほったらかしになるのではないかという心配がある。空き家は、崩すのに補助金が出たり、行政が崩したりできるようになった。できれば、太陽光パネルについても、ほったらかしにしているものは市が強制的に撤去できるようなことまで、今から将来の対応策を市で考えておいてほしい。

宗像大社や神湊にかけての電柱をなくし、無電柱化することも、景観を維持するには大切なことではないか。届出の概要を見ると、電柱の移設などの数も多いようなので、将来的に世界遺産にふさわしいまちづくりのために是非検討していただきたい。

4．事務局からの報告

- ・前回の審議会で、景観重要公共施設を指定するので景観計画を変更することを審議した。その進捗として、公共施設の管理者である福岡県と協議を行ってきたが、本日、協議の回答が来た状況である。その結果、今までの資料と内容は変わらないので、前回お示しした形で最終的に景観計画の変更をさせていいただきたい。今後、庁議や部内の決済を経て早ければ8月中か、9月はじめまでには景観計画の変更を完了したいと考えているので、ご承認いただきたい。